







# 新潟県内の弥生時代中期から終末期の墳墓とその分布

## 新潟県内の弥生時代中期から終末期の墳墓一覧表

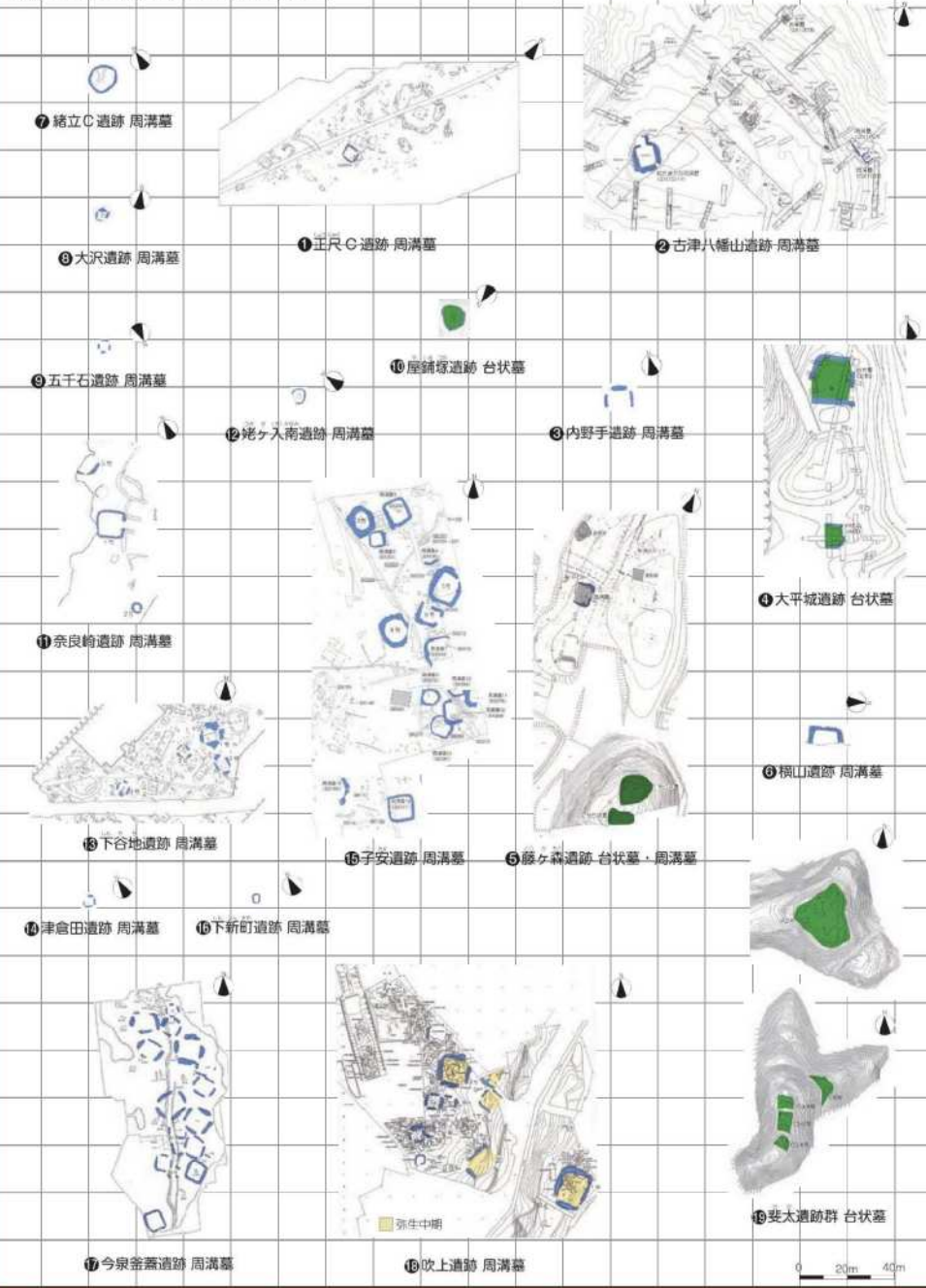
№	遺跡名称	所在市町村名	形状	規模	調査機関等	弥生時代所属			
1	石丸C遺跡 方墳墓	新潟市	方形周溝墓	5.0m×5.5m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
2	西津八幡山遺跡 両翼墓(IX1302)	新潟市	方形周溝墓	2.8m×3.1m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
	西津八幡山遺跡 両翼墓(IX1304)		方形周溝墓	4.7m×6.3m					
	西津八幡山遺跡 両翼墓(IX1303)		方形周溝墓	—					
	西津八幡山遺跡 両翼墓(IX03514)		前方後方形周溝墓	13.0m					
3	内野手遺跡 周溝墓	三浦市	方形周溝墓	10.5m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
4	大平城遺跡 台状墓(遺集)	泉沢町	方形台状墓	16m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
	大平城遺跡 台状墓(遺集)		方形台状墓	10m					
5	藤ヶ森遺跡 1号台状墓	新潟市	方形台状墓	13m×15m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
	藤ヶ森遺跡 2号台状墓		方形台状墓	11m					
6	海上遺跡 周溝墓	新潟市	方形周溝墓	4.2m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
7	緒立C遺跡 周溝墓	新潟市	方形周溝墓	11.5m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
8	大沢遺跡 周溝墓	新潟市	方形周溝墓	10.0m×11.5m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
9	五千石遺跡 周溝墓	新潟市・長岡市	方形周溝墓	3.0m×4.3m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
10	屋敷塚遺跡 台状墓	長岡市	方形台状墓	8.7m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
11	赤坂崎遺跡 1号周溝墓	長岡市	円形周溝墓	12m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
	赤坂崎遺跡 2号周溝墓		円形周溝墓	4m					
	赤坂崎遺跡 3号周溝墓		方形周溝墓	10m以上					
12	姥ヶ入南遺跡 周溝墓	新潟市	円形周溝墓	6.3m×6.6m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
13	下谷地遺跡 1号周溝墓	新潟市	方形周溝墓	6.0m×7.0m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
	下谷地遺跡 2号周溝墓		方形周溝墓	4.5m×5.6m					
	下谷地遺跡 3号周溝墓		方形周溝墓	15.8m×8.0m					
	下谷地遺跡 4号周溝墓		方形周溝墓	4.8m×5.6m					
14	津倉田遺跡 周溝墓	上越市	方形周溝墓	3.5m×4.0m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
15	子安遺跡 6号周溝墓(SX231)	上越市	方形周溝墓	10.0m×12.6m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
	子安遺跡 8号周溝墓(SX248)		方形周溝墓	6.6m×8.0m					
	子安遺跡 1号周溝墓(SX235)		円形周溝墓	7.0m×10.0m					
16	下新町遺跡 周溝墓	上越市	方形周溝墓	3.0m×4.3m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
17	今泉釜蓋遺跡 2号周溝墓	上越市	方形周溝墓	0.3m×0.5m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末			
	今泉釜蓋遺跡 3号周溝墓		方形周溝墓	0.8m×0.1m					
	今泉釜蓋遺跡 4号周溝墓		方形周溝墓	4.9m×9.2m					
	今泉釜蓋遺跡 5号周溝墓		方形周溝墓	8.7m×7.8m					
	今泉釜蓋遺跡 6号周溝墓		方形周溝墓	6.2m×10.8m					
	今泉釜蓋遺跡 8号周溝墓		方形周溝墓	7.3m×7.8m					
	今泉釜蓋遺跡 9号周溝墓		方形周溝墓	6.1m×7.2m					
	今泉釜蓋遺跡 10号周溝墓		方形周溝墓	6.3m×7.5m					
	今泉釜蓋遺跡 11号周溝墓		方形周溝墓	7.0m×8.6m					
	今泉釜蓋遺跡 15号周溝墓		方形周溝墓	5.6m×6.1m					
18	吹上遺跡 1号周溝墓		上越市	方形周溝墓			12.0m×14.0m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末
	吹上遺跡 2号周溝墓			方形周溝墓			11.0m×12.0m		
	吹上遺跡 6号周溝墓			方形周溝墓			5.2m×5.2m		
	吹上遺跡 10号周溝墓			方形周溝墓			4.2m×4.2m		
	吹上遺跡 11号周溝墓			方形周溝墓			4.6m×5.1m		
19	斐太遺跡群 A2号台状墓	妙高市		方形台状墓	14~17m×18~20m	新潟県教育委員会	弥生時代前期末		
	斐太遺跡群 C3-1号台状墓			方形台状墓	4.0m×5.6m				
	斐太遺跡群 C3-2号台状墓			方形台状墓	7.0m×8.0m				
	斐太遺跡群 C3-3号台状墓			方形台状墓	7.0m×8.5m				
	斐太遺跡群 C6号台状墓			方形台状墓	5.8m				

## 新潟県内の弥生時代中期から終末期の墳墓

新潟県では弥生時代中期以降、集落内の有力者の墓として方形周溝墓がつくられはじめ、後期には円形周溝墓や方形台状墓も出現します。古津八幡山遺跡では、弥生時代終末期に前方後方形周溝墓がつくられます。この形の墳墓は会津にもあり、古津八幡山遺跡から伝わった可能性が考えられます。



## 新潟県内の弥生時代中期から終末期の墳墓



### 引用・参考文献・出典

県地教育委員会 1994 「緒立C遺跡発掘調査報告書」 県地教育委員会  
 新潟県埋蔵文化財調査事業団 2002 「第116編 赤坂崎遺跡」  
 新潟県教育委員会/新潟県埋蔵文化財調査事業団 2006 「第155編 屋敷塚遺跡・正穴A遺跡・正穴C遺跡」 新潟県教育委員会/上越市教育委員会 1999 「上越市地区(旧塩田町)発掘調査報告書 津倉田遺跡」 上越市教育委員会/上越市教育委員会 2010 「今泉釜蓋遺跡」 上越市教育委員会/上越市史学文化委員会 2003 「上越市史 資料編2」 上越市/西海教育委員会 2010 「五千石遺跡2区-4区」 新潟県埋蔵文化財調査事業団 2004 「新潟県考古学調査報告書 津倉田遺跡」 新潟県教育委員会/新潟県教育委員会 1999 「藤ヶ森遺跡一帯発掘調査報告書(第1次)」 新潟市教育委員会/新潟県教育委員会 1979 「上越市発掘調査 埋蔵文化財発掘調査報告書 下谷地遺跡」 新潟県教育委員会/新潟県教育委員会 2006 「天代山遺跡」 新潟県教育委員会





滝ノ前遺跡 遠景



滝ノ前遺跡 2-3号竪穴住居



滝ノ前遺跡 2-3号竪穴住居



滝ノ前遺跡 3号竪穴住居



山元遺跡 全景



山元遺跡 環濠



大倉山遺跡 遠景



中店遺跡 請負風車

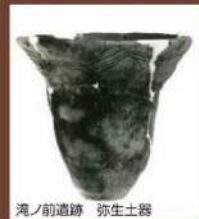


中店遺跡 遺物出土状況

### 滝ノ前遺跡 (村上市岩ヶ崎)

三日月川河口の右岸段丘上にある弥生時代を中心とした遺跡です。標高約42mと高く周辺との標高差があることから、新潟県内で最北の高地性集落と考えられています。円形の竪穴住居が3棟確認されていますが、この集落を囲む環濠は見つかっていません。出土した弥生土器は東北系を主体にして、北陸系も見られます。ほかにはアメリカ式石鏝などの石器類が見つかっています。出土した遺物から弥生時代後期中葉-後葉を中心に営まれた集落と考えられます。

(遺跡の写真提供: 村上市教育委員会  
遺物の写真: 新潟県1983)



滝ノ前遺跡 弥生土器

### 山元遺跡 (村上市下助瀧)

丘陵上の標高約40mに位置する弥生時代の遺跡です。周辺との標高差は37mとなります。遺構は環濠や土筑竪、廊下柱建物などが見つかっており、また墓域と居住域との区別があったと考えられています。出土した弥生土器は東北系を主体にして、北陸系や統縄文土器があります。また、1つの土筑竪からガラス小玉が88点見つかりました。出土した遺物から、弥生時代後期中葉を中心に営まれた日本海側最北の高地性環濠集落と考えられます。

(写真提供: 新潟県教育委員会)

### 大倉山遺跡 (五泉市橋田)

丘陵頂部の標高74mに位置する弥生時代の遺跡です。周辺との標高差が約60mあることから、高地性集落と考えられています。発掘調査がされていないため、環濠などがあるかどうかはわかりません。丘陵の頂上から中腹にかけて遺物が散布しています。採集されている遺物は土器や石器などがあります。土器は北陸系が主体ですが、統縄文土器も採集されています。採集された遺物から、弥生時代後期中葉に営まれた集落と考えられます。

(図の出典: 前山1999)



大倉山遺跡 統縄文土器

### 中店遺跡 (南蒲原郡田上町大字田上)

丘陵上の標高約65mに位置する弥生時代の遺跡です。周辺との標高差があることから高地性集落と考えられています。集落を囲む環濠は見つかっていません。土器はほぼ完全な形が見つかっています。これは磨り込みがわかりませんが、埋設された可能性が高いことから、墓(棺)と考えられています。ほかにも出土した土器がありますが、大半が東北系の弥生土器です。出土した遺物から弥生時代後期前葉に営まれた遺跡と考えられます。

### 経塚山遺跡 (三条市如法寺)

丘陵上の標高約72mに位置する弥生時代の遺跡です。周辺との標高差は58mあります。遺構は断面がV字形の環濠が2か所確認されており、ほかには竪穴住居3棟、溝などが確認されています。環濠の大きい方は幅2.25m、深さ1.2mの規模です。土器は北陸系が主体でむすかに信州系・東北系が見られます。竪穴住居からは船載の板状鉄斧が見つかりました。出土した遺物から弥生時代後期中葉に営まれた高地性環濠集落と考えられます。(写真提供: 三条市教育委員会)



経塚山遺跡 遠景



経塚山遺跡 環濠



経塚山遺跡 竪穴住居

### 大平城遺跡 (見附市高切窪町)

丘陵先端部の尾根上、標高102mにあります。周囲には環濠が存在し、周辺との比高が約80mもあることから防衛的な意味合いの強い高地性環濠集落と考えられます。ここでは方形台状墓が2基確認されており、北側にあるものは全長16m、南側にあるものは全長10mの規模です。2つとも右周溝があります。出土した遺物から弥生時代後期前葉-中葉につくられたと考えられます。(写真提供: 新潟県教育委員会)



大平城遺跡 遠景



大平城遺跡 環濠



大平城遺跡 南側台状墓



横山遺跡 遠景



横山遺跡 全景



横山遺跡 方形筒溝墓



横山遺跡 環濠

### 横山遺跡 (長岡市桂町)

小丘陵上の標高約26mにある弥生時代の遺跡です。遺構は環濠3条、その環濠の内側に竪穴住居4棟、外側に全長11.5mの方形高溝墓1基などが確認されています。最大規模の1号環濠は確認できた長さで合わせて60m、幅約2m、深さ約1mになります。土器は北陸系を主体に、東北系・信州系・東海系など様々な地方の影響が見られます。出土した遺物から弥生時代終末期を中心とした環濠集落と考えられます。

(遺跡の写真提供: 長岡市教育委員会  
遺物の写真: 長岡市1982)



横山遺跡 弥生土器

### 大沢遺跡 (新潟市西蒲区稲島)

縄文時代を主体とした遺跡ですが、尾根の先端部の標高約38mの位置に弥生時代の集落跡があります。竪穴住居4棟、1辺3.8mの方形高溝墓1基などが確認されています。環濠は確認されていませんが、平野との比高が約33mあることから高地性集落と考えられています。出土した弥生土器は北陸系を主体にして、東北系・信濃系・東海系・山陰系・近江系など様々な地方の影響が見られます。石鏝や土槌も見つかっています。出土した遺物から弥生時代後期から終末期に営まれた集落と考えられます。(写真提供: 新潟大学考古学研究室)



大沢遺跡 遠景



大沢遺跡から平野部を望む



大沢遺跡 竪穴住居





西岩野遺跡 遠景



西岩野遺跡 大溝(環濠)

### 西岩野遺跡(柏崎市大字長崎)

中段丘上の標高約25~30mにある弥生時代を含む遺跡です。周辺との標高差は20~25mあります。建物と考えられる柱穴や戸の跡、大溝などが確認されています。大溝は環濠の可能性があるので環濠集落と考えられています。出土した遺物は弥生土器のほか、玉作りを推測させる磁石や、碧玉の剥片・ヒスイに似た剥片などもありました。出土した遺物から弥生時代後期中葉の集落と考えられます。

(写真提供: 柏崎市教育委員会)



田塚山遺跡群A地区 近景



田塚山遺跡群A地区 大溝(環濠)

### 田塚山遺跡群A地区(柏崎市藤井・彦目・下田尻)

中段丘上の標高20mに位置する弥生時代を含む遺跡群です。特に田塚山A地区では大溝が確認されています。この大溝は上から見ると尾根筋で折り返したような「く」の字状になっています。調査範囲内で延長約24m、幅が平均約1.5m、深さの平均が約1.3mとなります。このことから防衛を強く意識した環濠である可能性が指摘されています。大溝より出土したごくわずかな遺物から弥生時代後期中葉から終末期に営まれた防衛的な集落と考えられます。

(写真提供: 柏崎市教育委員会)

### 裏山遺跡(上越市大字岩木)

台地上に位置し、最高点が標高92mを測る遺跡です。竪穴住居8棟、3条の環濠などが確認されています。周辺との標高差は70m程度あります。遺物は土器のほか、鋳先や鉄線などの鉄器が計11点、完成品の勾玉などの玉類や、原石や未完成品などの玉作りの製作資料、石鏝や石斧などの石器類があります。出土した遺物から弥生時代後期中葉に営まれた高地性環濠集落と考えられます。(写真提供: 新潟県教育委員会 図の出版: 上越市史編さん委員会2004)



裏山遺跡 遠景



裏山遺跡 全景



裏山遺跡の高地性環濠集落

### 下馬場遺跡(上越市大字下馬場)

丘陵上の標高70~78mに位置する弥生時代を含む遺跡です。玉作りをしたり、また銅冶作業が行われていたと推測される竪穴住居が合わせて14棟や土坑などが確認されています。周辺との標高差が約40mあることから高地性集落と考えられています。遺物は土器のほか、砥石などの石器類や、鉄線や針状の鉄製品、碧玉製作の一連の工程をしめす原石から研磨までの資料が見つかっています。出土した遺物から弥生時代後期中葉から終末期に営まれた集落と考えられます。

(写真提供: 新潟県教育委員会)



下馬場遺跡 遠景



下馬場遺跡 全景



斐太遺跡群の竪穴住居と環濠の分布



斐太遺跡 環濠近景



斐太遺跡 環濠

### 斐太遺跡 国指定史跡 斐太遺跡群(妙高市大字宮内)

丘陵上に位置する東日本では最大級の弥生時代の遺跡です。狭い谷地形により3つの丘陵上にわかれて遺跡が広がっています。遺構は標高約60~110mに分布します。竪穴住居は連みとして今も残り、その痕跡が130が所以上も観察できます。いずれの丘陵でも環濠が確認され、または調査により確認されています。さらに背後の丘陵にほぼ同時期の須賀群も確認されています。出土した遺物から弥生時代後期中葉から終末期に営まれた高地性環濠集落と考えられます。

(写真提供: 妙高市教育委員会 図の出版: 上越市史編さん委員会2004)



斐太遺跡 弥生土器



釜蓋遺跡 全景

### 釜蓋遺跡 国指定史跡 斐太遺跡群(上越市大和)

標高約19mの扇状地末端の高地上に位置する弥生時代を主体とした遺跡です。遺構は環濠2条、連り出し区画溝、竪穴住居や掘立柱建物、平地式建物などの可能性のある遺構や、土坑、竪穴などが確認されています。遺物は土器以外に勾玉などの玉作りの関係資料や、環濠の中から多くの磨石や建築部材と推測される木製品が見つかっています。出土した遺物から弥生時代終末期を中心に営まれた環濠集落と考えられます。この集落の環濠が今泉釜蓋遺跡と推測されます。

(遺跡の写真提供: 上越市教育委員会 遺物の写真: 上越市教育委員会2008 図の出版: 上越市教育委員会2008 環濠をともに加工)



釜蓋遺跡 環濠



釜蓋遺跡 弥生土器



吹上遺跡 全景



吹上遺跡 区画溝(環濠)



吹上遺跡 弥生土器・石器など

### 吹上遺跡 国指定史跡 斐太遺跡群(上越市大字稲荷)

扇状地の末端にある河岸段丘上の標高約25mに位置する弥生時代から古墳時代の遺跡です。遺構は環濠の可能性のある区画溝や方形周溝、玉作り工場の竪穴住居や、平地式建物・掘立柱建物などが確認されています。遺物は土器や玉作りの関係資料のほか、石刃などの石器や特殊な銅線形の石製品・土製品、銅形土製品があります。出土した遺物から弥生時代中葉と後期中葉・後葉を中心に営まれた集落で、環濠の可能性のある区画溝から出土した遺物から、中期中葉には環濠が掘られていたと考えられます。

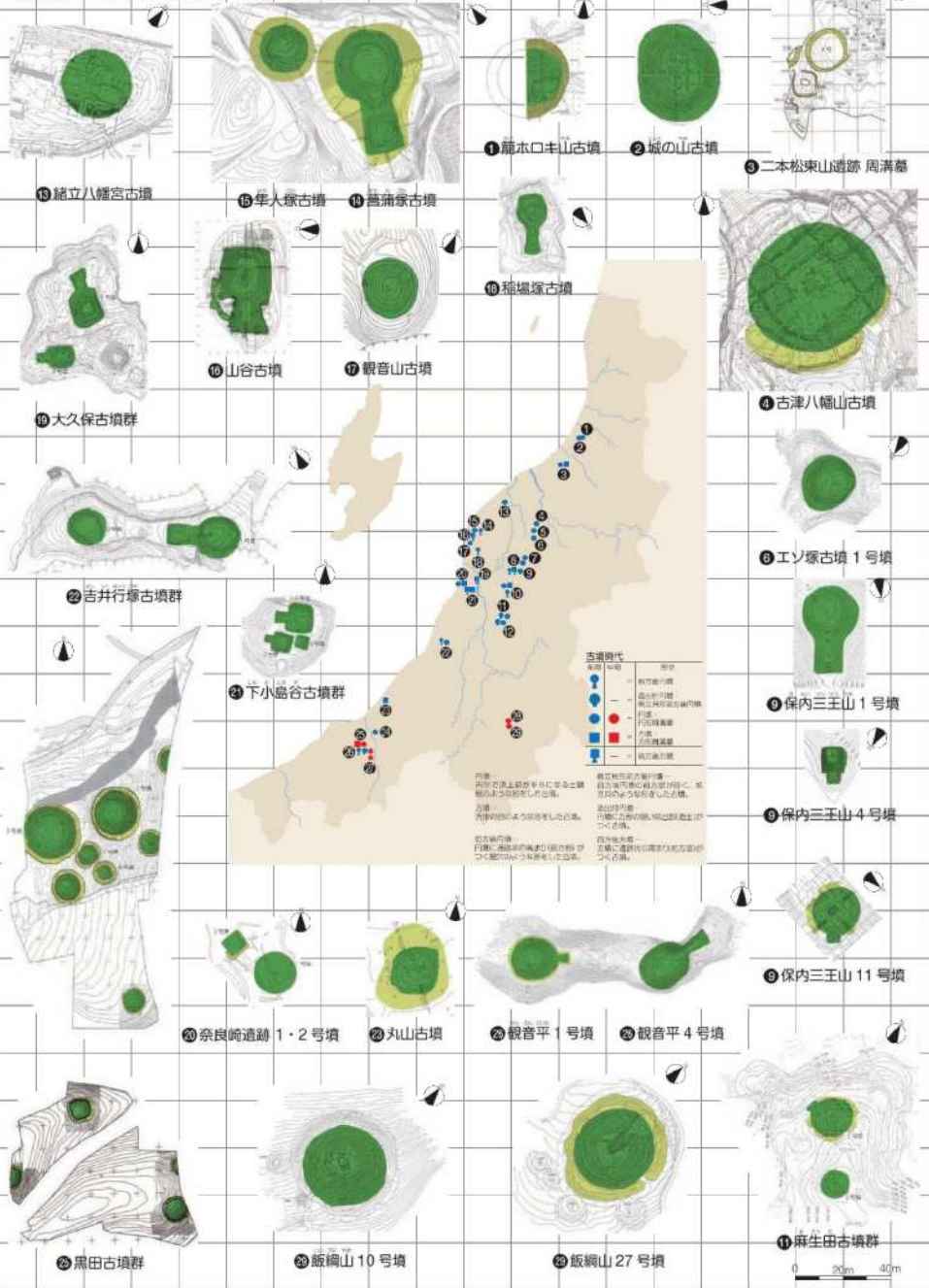
(写真提供: 上越市教育委員会)







新潟県内の古墳時代前期から中期の墳墓



城の山古墳 (胎内市大塚)

長軸41.6mの円墳で、県内の前期古墳では3番目の大きさです。標高約6mの低地部につくられています。埋葬施設は列柱式の布形木棺と考えられ、中からは銅鏡・銅鐙、大刀や鉄斧などといった金属製品や、矢を入れる野、弓、玉類などが多く出土しています。出土した遺物から古墳時代前期後半につくられたと考えられます。近くには直径24mの円墳である籠木口山古墳がありました。周辺には同時期の集落も多く存在します。2つとも今のところ日本海沿岸部で最北に位置する前期古墳です。  
(写真提供: 胎内市教育委員会)



城の山古墳 全景

保内三王山古墳群 (三条市上保内)

丘陵尾根上の標高40~120mにかけて存在する前期・後期古墳からなる計17基の古墳群です。調査された中では、遺物量が多いのは11号墳です。全長21.6mで部分的に周濠をもつ造出付円墳です。埋葬施設は組合式木棺(板材を組み合わせてつくった棺)で、中から銅や鉄剣・鉄斧、玉類が出土しています。出土した遺物から古墳時代前期後半につくられたと考えられます。4号墳(前方後方墳)→11号墳→1号墳(前方後円墳)の順に、首長の墓がつけられたと考えられています。(遺跡の写真提供: 三条市教育委員会 遺物の写真提供: 新潟県史博物館)



保内三王山古墳群 通景



保内三王山古墳群 11号墳埋葬施設



保内三王山古墳群 11号墳 鏡



保内三王山古墳群 1号墳近景

麻生田古墳群 (長岡市麻生田町)

尾根上の標高110~113mに位置します。1990年の測量調査により、2基の古墳が確認されています。1号墳は全長18.6mの造出付円墳です。造出部以外をほぼ1周する周濠があります。周濠は部分的に途切れており、古墳と外部をつなぐ通路とも考えられています。遺物は採集されていませんが、古墳の形から古墳時代前期につくられたと考えられています。隣接する2号墳は同時期につくられた円墳と考えられています。  
(写真提供: 長岡市教育委員会)

緒立八幡宮古墳 (新潟市西区黒島)

埋没砂丘上の海拔0m地帯に位置します。真石のある直径30mの円墳です。真石とは古墳の墳丘斜面に敷き詰められた石のことです。蓋土の流出を防ぐためや、装飾のためと考えられています。県内の前期古墳で真石があるのは珍しくこの古墳と観音山古墳の2例だけです。墳丘斜面の調査のみのため埋葬施設についてはわかりません。出土した遺物から古墳時代前期につくられたと考えられます。



緒立八幡宮古墳 真石



緒立八幡宮古墳 墓石



緒立八幡宮古墳 土師器





葛蒲塚古墳・牟人塚古墳 全景



葛蒲塚古墳・牟人塚古墳 遠景



葛蒲塚古墳 土師器



葛蒲塚古墳 玉類



葛蒲塚古墳 鏡

### 葛蒲塚古墳 国指定史跡(新潟市西蒲区竹野町)

日本海側沿岸部における東北端の前方後円墳です。舌状台地の先端部の標高約26mに位置します。2002・2003年の確認調査により、周囲に環がめぐる全長54mの前方後円墳であることが明らかになりました。出土した遺物から古墳時代前期後半につくられたことも分かりました。古墳に埋葬された人物は、北方社会との交流の窓口として活躍したと考えられます。隣接してほぼ同じ時期につくられたと考えられる直径21mの円墳、牟人塚古墳が存在します。(録の写真 新潟県1933)



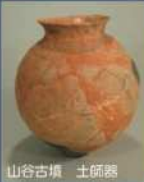
山谷古墳 埋葬施設調査風景



山谷古墳 埋葬施設



山谷古墳 土師器



山谷古墳 土師器



山谷古墳 玉類



鉄製品

### 山谷古墳(新潟市西蒲区堀井)

丘陵先端の標高55.5mに位置しています。1983-1987年に発掘調査が行われました。全長37mの前方後方墳で、埋葬施設は割竹形木棺(長い丸太を縦に割り、各々の内部を刳りぬいて蓋と身にした棺)であるとされています。この中からは工具のノミのような鉄製品、玉類が見つかっています。出土した遺物から古墳時代前期前半につくられたと考えられます。すぐ下には同時期の拠点集落である御井戸遺跡が存在しており、御井戸の首長の墓と推測されます。(埋葬施設の写真提供 新潟大学考古学研究所)

### 大久保古墳群(長岡市寺泊町群井)・下小島谷古墳群(長岡市下小島谷)

大久保古墳群は丘陵尾根の標高43.9mに位置し、前方後方墳2基、方墳1基(後世の塚)や、複数の環状の高まりからなる古墳群です。このうち古墳の可能性が高い2号墳が前方後方墳と考えられています。1号墳は全長25m、2号墳は全長18mになります。古墳の形から古墳時代前期につくられたと考えられています。近くの下小島谷古墳群は、前方後方墳2基と方墳1基が存在します。どちらも方形の古墳のみがつくられており、その背景が注目されます。



大久保古墳群 遠景



下小島谷古墳群 遠景



下小島谷古墳群 2号墳近景



奈良崎遺跡 遠景



奈良崎遺跡 1号墳近景

### 奈良崎遺跡(長岡市島崎)

最も標高の高い所が94mを測る奈良崎遺跡で確認された古墳です。古墳は居根上にあり、1号墳は直径約18mの円墳です。隣接して周濠をもつ10m以上の方墳の2号墳があります。埋葬施設は木棺と考えられています。棺の形はわかっていません。棺の中から長、玉類が出土しています。遺物から古墳時代前期後半につくられた古墳と考えられます。2号墳も古墳時代前期につくられたと考えられています。(写真提供 新潟県教育委員会)

(写真提供 新潟県教育委員会)

### 吉井行塚古墳群(柏崎市大字吉井)

古墳は丘陵上の標高30mに位置しています。1988年に測量調査が行われ、前方後円墳・円墳・小マウンド2基からなる古墳群の可能性があるとすることがわかりました。ただし小マウンド2基については古墳かどうかはわかりません。1号墳は全長約18mの前方後円墳です。遺物は採集されていませんが、古墳の形から古墳時代前期後半につくられたと考えられています。隣接する2号墳は直径約18mの円墳と考えられています。(写真提供 柏崎市教育委員会)



吉井行塚古墳群 1号墳近景



吉井行塚古墳群 2号墳近景



観音山古墳 遠景



観音山古墳 近景

### 観音山古墳(新潟市西蒲区樋曾)

丘陵上の標高約40mの位置につくられています。1983年に測量調査が行われ、直径26mの円墳と考えられています。部分的に周濠があり、斜面には奥内では珍しい墓石が確認されています。立地や周辺の古墳との関係などから、古墳時代前期後半から中期前半につくられたと考えられています。墓石は周辺の石を利用したと考えられ、緒立八幡宮古墳の墓石とのあたりから採れたと考えられています。



稲塚古墳 遠景



稲塚古墳 近景

### 稲塚古墳(西蒲原郡弥彦村大字山岸)

独立した小丘陵上の標高約44mに位置します。1992年に測量調査が行われ、全長約26mの前方後円墳であるとされています。周辺からは土器や玉が採集されています。古墳の形の検討から、県内で一番古い古墳で、古墳時代前期前半につくられたと考えられています。未発掘のため詳細は不明ですが、地中に何があるかを探るボーリング調査から、埋葬施設には石を使用している可能性があると考えられています。



観音平古墳群 1号墳前方部



観音平古墳群 4号墳近景

### 観音平古墳群 国指定史跡(妙高市大字宮内)

計50基以上の古墳からなる古墳群です。大半は古墳時代中期後半から後期にかけてつくられたと考えられています。その中で、古墳時代前期につくられた古墳としては1号墳と4号墳があります。丘陵上の標高約97~100mに位置します。2001・2002年に発掘調査が行われて、1号墳は全長28.8mで前方部の短い帆立貝のような形をした前方後円墳、4号墳は全長33.6mの前方後円墳ということがわかりました。(写真提供 妙高市教育委員会)

(写真提供 妙高市教育委員会)